博士論文審査結果の要旨

学位申請者　渡　辺　彰　英

主論文　　1 編

Impact of high myopia and duration of hard contact lens wear on the progression of ptosis.

Japanese Journal of Ophthalmology 57; 206-210, 2013

審　査　結　果　の　要　旨

ハードコンタクトレンズ（以下 HCL）に伴う眼瞼下垂は，若年から中年によくみられる疾患である．この病態は，HCL 長期装用者に起こる腱膜性下垂であり，HCL を外す際に上眼瞼を外側へ引くことで挙筋腱膜の菲薄化や瞼板からの乖離などが起こることに起因すると数多くの論文が報告してきた．過去には，片眼に HCL，片眼に SCL を装用させた 11 例について検討し，4 週間以内に 5 例で HCL 装用眼のみに眼瞼下垂が発症し，HCL の装用中止によって改善したという HCL を外す際の変化以外の原因を示唆する報告もある．また，申請者が加齢性眼瞼下垂と HCL 眼瞼下垂の組織学的検討を行った研究では，HCL 眼瞼下垂ではミュラー筋の線維化を認めたが，加齢性眼瞼下垂ではほとんど認めなかった．以上のように，HCL 眼瞼下垂の病態は，HCL を外す際の挙筋腱膜の変化だけでは説明できず，未だ明らかになっているとはいえない．

そこで，申請者は，強度近視と装用年数が HCL 眼瞼下垂に与える影響について，眼瞼下垂の程度を 4 段階に分類し，年齢，平均等価球面度数，装用年数との関連について検討した．HCL 装用中の 98 例 194 眼を眼瞼下垂の程度で分類した結果，下垂なし 11 眼，軽度 37 眼，中等度 47 眼，重度 99 眼であった．平均等価球面度数は，下垂なし群で-4.80±1.72D，軽度群で-5.57±2.10D，中等度群で-6.28±2.44D，重度群で-8.34±3.84D で，重度群とその他の 3 群との間にそれぞれ有意な差を認めた．平均装用年数は，下垂なし群で 31±11 年，軽度群で 29±10 年，中等度群で 30±9 年，重度群で 34±8 年で，重度群と中等度群，重度群と軽度群の間に有意差を認めた．パス解析の結果，平均等価球面度数，装用年数および年齢が有意に下垂の重症度と関連していた．また，重度群とその他の群の 2 群に分けて多変量解析を行った結果，重症眼瞼下垂は，年齢と装用期間が増えること，平均等価球面度数が低下することと関連していた．これらの結果は，HCL を外す際の外力が眼瞼下垂の原因という説では説明できず，むしろ強度近視に伴いエッジが厚い HCL を長期装用することが徐々に眼瞼下垂を進行させることを示唆し，強度近視と長期装用は HCL 眼瞼下垂進行のリスクファクターであることを明確にした．

以上が本論文の要旨であるが，HCL 眼瞼下垂における多症例の臨床データを解析し，HCL 眼瞼下垂の病態とリスクファクターについて新しい知見を明らかにした点で，医学上価値ある研究と認める．

平成 26 年 1 月 16 日

審査委員　教授　　柳　澤　昭　夫　　㊞

審査委員　教授　　矢　部　千　尋　　㊞

審査委員　教授　　髙　松　哲　郎　　㊞